# 富沢小学校の歴史

伊野澤文庫（明治32年）

富沢小学校は、今から１２５年前の明治３２年１月５日に当時の地域に住んでいた田原菊次郎氏の自宅の一部を借りて、伊野澤文庫というものをつくり、１２名ほどの子どもを集めて国語や算数を教えたことがはじまりです。同年１１月１８日に住民の要望がかなって伊野澤簡易教育所（いのさわかんいきょういくじょ）がつくられました。当時の簡易教育所は４年間の学校生活で読書・作文・習字などを学んでいたようです。明治４０年に尋常小学校６年の義務教育制度が確立したことを受け、明治４１年４月に伊野澤尋常小学校となりました。明治４１年富沢尋常小学校、昭和１６年富沢国民学校と改称されました。戦後の昭和２２年４月神居村立富沢小学校となりました。このときの児童数が２４名でした。昭和３０年４月に旭川市と神居町が合併し、旭川市立富沢小学校としてスタートしました。昭和５０年代に入り、児童数が激減し、昭和６０年には１０名となりました。そこで、地域住民の強い要望と支援により昭和６１年４月から特認校としてスタートし現在に至ります。このときの児童数は３６名でした。特認校になってからは５０名を超える年もありましたが、現在の２４名は一番少ない児童数です。

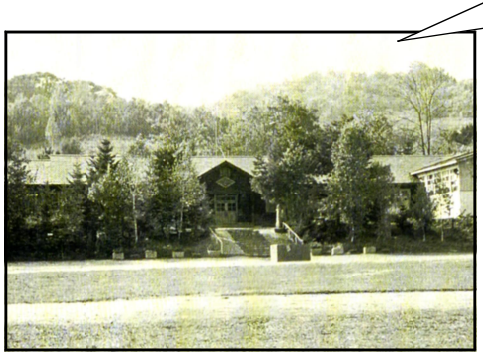
初代　佐藤校長

初代校長は佐藤實重氏。なんと、１０年４か月間も校長でした。昭和６年３月まで勤務していたようです。

---

※伊野澤の地名　伊野澤という地名は、「ピルカノ」という「美麗」（びれい：美しくてあでやかなこと）を意味するアイヌ語からきていると言われています。また、最初に富沢地区に入植した伊藤傳三郎氏の「伊」と沢地であるところから伊野澤になったとも言われています。富沢地区は明治２５年秋田県から移住した伊藤傳三郎氏が畑作農業に従事したのが開拓の始まりだとされています。

---


昭和29年頃の校舎　現在の「ふれあい家」にあり、グランドが現在の校舎にあった。児童数は約100名。

現在の富沢小学校

## ――校章の由来――

昭和３４年１１月、開校６０周年を記念して制作されたと記録されています。一般公募したところ、当時、東大に在学中の倉島昭広さんの作ったものが採用になりました。

６つのペンは、校訓「親切・自治・勤労・敬虔・奉仕・誠心」を指し、雪の結晶は北海道、月桂樹は成就するまでにたゆまず努力する開拓精神を示したものだそうです。